

2026年6月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

大 阪 店	+7.6	柏 店	※2 +1.4
京 都 店	※1 +11.4	E C 店	+8.5
泉 北 店	+7.4	(株)高島屋各店計	+4.3
日 本 橋 店	+10.6	(株)高島屋各店 既存店計	※3 +5.6
横 浜 店	△2.0	岡 山 高 島 屋	△4.0
新 宿 店	+5.9	高 崎 高 島 屋	+3.1
玉 川 店	+1.3	国 内 百 貨 店 計	+4.1
大 宮 店	△6.0	国 内 百 貨 店 既 存 店 計	※3 +5.4

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。

※2 「タカシマヤフードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「塚店」の前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+4.1%(※+5.4%)、免税売上高+32.4%、免税を除いた店頭売上高+0.9%(※+2.4%)となりました。

※上記の数値は、第1四半期決算に伴う売上高修正を反映しております。(5月度はマイナス、6月度は同額プラスの売上高修正) 売上高修正を除く実質の前年比(既存店対比)は以下のとおりです。

5月度:店頭売上高+12.1% 免税を除いた店頭売上高+11.0%

6月度: " +5.8% " +2.8%

○国内顧客については、天候の影響等により、衣料・雑貨が前年実績を下回りました。一方、ラグジュアリーブランドをはじめとする高額品が堅調に推移したことで、全体では前年実績を上回りました。

インバウンド顧客についても、高額品の伸長により、売上高を押し上げました。 ※前年比【件数(客数)】+1.5%【単価】+30.4%

○店舗別売上高は、大阪店、京都店、泉北店、日本橋店、新宿店、玉川店、柏店、EC店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高(当社分類・既存店対比)は、特選衣料雑貨、宝飾品、呉服、スポーツ、リビング、美術が前年実績を上回りました。